

# 工房 拝見

## 京焼きの工房

会員 岩崎安男



文齋窯の工房にて作陶中の筆者

私が陶芸を始めてもう三〇年になります。自分では工房を持たず、京都東山・五条坂にある文齋窯にお世話になっております。

この文齋窯は江戸時代から六代続く京焼きの窯元で、当主は六代目小川文齋さんです。私は五代目から二代に渡り教えを受けております。

この五条坂近辺では土地に傾斜が有る為、昔から多くの登り窯が築かれ、京焼きが栄えました。現在、工房には明治初期に築窯された登り窯が京焼きの隆盛を今に伝える文化遺産(京都市登録有形文化財)として残されています。

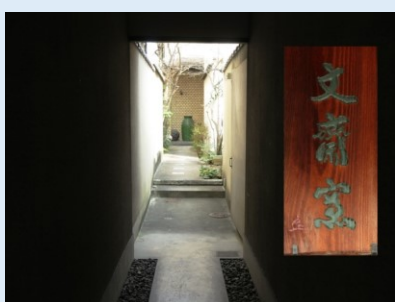
現在は環境問題で市内での登り窯の稼働は難しく、工房では電気窯・ガス窯が使用されています。またこの工房では常

時二〇種類近くの釉薬が用意されており、彩色の選択肢が非常に多いのもこの工房の魅力の一つです。

この文齋窯では最初の一年間は基礎をみっちり仕込まれますが、その後は自由に作陶出来、楽しく創作活動を行うております。毎月二回と言う割とゆつくりの作陶ペースが長続きする秘訣かと思えます。



現在、工房ではこの電気窯(中・小型作品用)とガス窯(大型作品用)を使用



京焼きの工房(文齋窯)のエントランス(格子戸に続く京都らしい細い路地奥が工房)

# 会員 広場

## アトリエ二編

委員 住佐美紗子

### 空中アトリエ

以前見たテレビドラマで「空中アトリエ」というのを思い出す。

普通の主婦が一番長くいるのが台所。自分の専用の部屋で絵を描くことができない母親が、脚立の上に乗って食器戸棚の上を利用して、絵を描くという話。

子供たちが学校から帰って来て、足元で「お腹空いた」と騒ぐ。「もう少し待って」と言うとお母さんは又空中アトリエやっている」と言う。子供たちは子供たちなりに母親のやりたいことを理解してくれているのだな・・・と。

制作を続けていく為には現状に合わせてやっていくことだ。私は介護の間、姑のベッドの脇にイーゼルをたて一〇〇号を描いていた。その頃は一生懸命でちよつとの時間も惜しんで頑張っていた。若い頃の自分を褒めてやる気持ちになる。情熱を失わずにできるだけ長く続けて行きたいものだ。

### いつでもアトリエ

古いカメラや写真機材を入れていたアルミのケース。

今、私の絵具やキャンバス張り替えの工具などを入れていて、とても重たく丈夫だ。これが五〇号だと一個、一〇〇号だと二個並べて丁度良い幅になる。

椅子にもなるし踏み台にもなる。これがどこでもアトリエなのだ。



アルミケースは私の万能ケース

### 編集後記

草原でスズムシの大合唱  
リン/リン/リン/  
威風堂々の音色!!

草原でキンヒバリの大合唱  
リリリリリリリリ  
癒しの音色♪♪

コロナ衰退?美術鑑賞、  
支部展、個展等々、会報の  
紙面が活気づいてきました。

2022.8.1 担当 石原 修